

布達之寫

右の者此度教導團へ入學奉願候處行狀方正の者も候間
御検査の上御採用被下度固より入團の上は御規則嚴重
に爲相守可申且又當人身上の儀は何事に寄ら私共引
受可仕依て本人履歴書相添此段奉願候以上

身元引受人

何府(縣)何族(平民)

姓名印

同 斷

同 斷

右の通願出候に付進達仕候也

年號月日

何府(縣)第何區區(戸)長

姓名印

陸軍教導團生徒検査官

御 中

前書之通相違無之候也

年號月日

何府(縣)知事(令)姓名印

第四條 履歴は左の離形に照るべし

何府(縣)何族(平民)

何年何月日種痘(天然痘)

姓名

年號何月生

一何年何月日任官補何等出仕被仰付(免本官出仕被免)

一何年何月日より何日迄何學校(塾)に入り教師某に就て
何學何迄を學ぶ

一何年何月日より何日迄何學研究商業の爲め何所に遊
學(海外留學)

一何年何月日何々に依て賞典何々下賜ふ

一何年何月日何々の科に依り何罰被申付

其他渾て身上の履歴に係るものは記載すべき事
右之通候也

身元引受人

姓名印

同 斷

第五條 志願人は検査官の通知次第定められたる検査場
地方に至り該區長又は戸長に止宿等届々置くべし

第六條 検査場出頭の往復並に滞在及合格の者出京を命
ずる節は定則の通り旅費滞在日當を與ふべし

第七條 入團の上は軍人となり遂に下士の任を蒙るべ
きを以て入團のとき其心志確實を証するが爲め誓文を
あさしむ

派出検査官員職務並心得書

一各地方へ派出の官員左の如し

検査官 一名

尉官之に任ず其職務府縣に出張し知事令或は書記官と示談し生徒の召募並検査の諸務を總理す

検査助官 一名

下士又は相當の文官を以て之に任ぜ其職務検査官に随従し其事務を助け學術技藝等を検査す

醫官 一名

軍醫副補の内又は地方醫師と以て之を充て身體骨格兵役に適する哉否を検査するを職とす

一事務多端にまて書記を要するときは府縣駐在官をまて

之れに充て或は其地方の者と雇役を

一生徒召募の任を擔當し派出する官員は陸軍出身の志願

に非ざる者を詐偽或は甘言と以て勸誘強徴するを禁ぜ

故に縦令志願の者と雖ども豫め兵種の成立隊中の景況

及び給養學費の概畧を説諭し本人了解承領の上之を檢

査すべし

一生徒志願の者の姓名と左式の通り書記を検査官へ送致

すべし

何府(縣)何族或は平民

姓

本年何月何年何ヶ月

合何人

右人名の者陸軍教導團生徒志願候間御検査被下度此
段申進候也

何府(縣)第何區々(戸)長

年月日
陸軍教導團生徒検査官

姓名印

同 斷
同 斷
同 斷
同 斷

御 中

一検査官は右の書面を受取り第三項の旨を説諭し本人了解承領の上検査を済すべし

一検査済の上は入學願書へ合格不合格を適宜處に記載捺印一纏めに於て其地方官に送達す各地方官に於て其差支なき者は定則の通本人の願書に調印して之を陸軍教導團へ送致せしむ

一検査官は検査合格の者の姓名及び其住所等を明細に記し其之を所持者歸京の上團長に呈すべし

一全國の志願者合格人員取纏めの上過員なれば多少取捨

そのことを豫め縣官へ達せ置くべし

一採用の者出京の節其途中川支或は海路難風等ひて延日の時は其區戸長或は船長の證書を取り置き持参すべき事且病氣等にて延日又は滞在する節は地方醫師の診断書を取置き着京の時到着届と共に之と差出すべき等を各員に篤と達せ置くべし

一出京の上は再び身體の検査あるを以て其出京途中等に惡症を受けし者は其節入國を許さざるのみあらを歸郷の旅費等も給はらざる旨をも亦篤と説諭せ置くべし

○甲第三百四拾三號 同廿日

今般第八拾壹號を以て酒類稅則改正追加公布相成候に付左の通可相心得此旨布達候事

一明治九年甲第廿三號布達酒釀造營業規則及本年甲第貳百九拾三號縣稅徵收規則第六條但書更正布達相廢止
本年甲第百八拾九號縣稅改正表第拾八行目酒酒釀造業の課目削除候事

一酒酒營業之者免許証札は追て引替可相渡候條當分の内從前渡置候証札を以營業可致事

但し從前の規則に隨ひ營業稅金登回上納濟の者へ更に金四圓來る廿八日迄に區戸長の手を経て上納可致

事

一酒類行商鑑札申受度者は其枚數を記載せ戸長連署區長
與印を以可願出申

一酒類受賣鑑札へと卸賣小賣の明文を記載相渡候條營業
人所持の受賣鑑札は卸小賣の區別番相添戸長の手を經
て區長へ差出之區長於ては區内取纏め來る廿八日迄に
可差出申

但之卸賣營業の者は増税金五圓本文れ手續を以納
可致事

一酒類受賣所看板の儀は表面れ右側へ卸賣小賣の區別判

然記載戸外へ掲ぐべき事

○甲第三百四拾四號 同廿二日

太政官第八拾五號 十二月十七日

本年一月第拾壹號布告鳥獸獵規則第九條へ但書同第拾八
條左の通追加候條此旨布告候事

第九條

一獵銃は云々

但之開拓使管内に限り和銃玉目十匁以下を用ふ
るを得べき

第拾八條

一開拓使管内に入り鹿獵を爲す者は該使施行の規則に遵ふべし

○甲第三百四拾五號 同廿四日

太政官第八十六號 十二月十八日

内内製木綿メリヤス編絆股引無稅輸出差許候條此旨布告候事

○甲第三百四拾六號 同日

工部省第二十號 十二月十三日

大分縣下延岡より鹿兒島縣下宮崎及び鹿兒島に至る電信架線落成右三ヶ所へ分局を設置之本月十五日より爲試通

信取扱候條普通信料の價は別紙表面の通に有之候此旨布達候事

和文 電信賃錢表 朱書 歐文

	大分	延岡	宮崎	鹿兒島
大	七錢	九錢	十一錢	
延	廿五錢	五十錢	五十錢	
宮	七錢	廿五錢	九錢	
鹿兒	廿五錢	七錢	廿五錢	

至	自	福岡	佐賀	久留米	熊本	八代	長崎
中津	大分	延岡	宮崎	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島
五十八錢	五十二錢	五十二錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢
五十二錢	五十二錢	五十二錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢
五十二錢	五十二錢	五十二錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢
五十二錢	五十二錢	五十二錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢
五十二錢	五十二錢	五十二錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢
五十二錢	五十二錢	五十二錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢
五十二錢	五十二錢	五十二錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢
五十二錢	五十二錢	五十二錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢	五十四錢

一大分より延岡及び宮崎への和歐文音信料并に小倉以西各分局より中津以下三分局への和歐文音信料は表面の通たるべし

一大分以東各分局より延岡以下各分局への和文一音信料

は一分局を経る毎に貳錢を増え拂ふべし

但し小倉以東以西各分局より鹿兒島分局へは明治八年(三月)當省第五號布達の通たるべし

一小倉以東各分局より延岡へは歐文一音信料は久留米と同玄宮崎へは熊本と同じ

但玄中津より延岡へは金五拾錢宮崎及び鹿兒島へは金壹圓を拂ふべし

○甲第三百四拾七號 同廿五日

大藏省甲第三十八號 十二月廿一日

第五國立銀行發行紙幣の儀同銀行本店東京第一大區十四

小區 蝸殼町 壹丁目 壹番地 於て 交換爲致候旨 明治九年 當
省 甲 第二十三號 を以て 布達 及び 置候處 今般 同銀行 支店 鹿
兒島縣 下第一 大區 三小區 築町 五番地 於て 本店 同權 交換
爲致候條 此旨 布達候事

○甲 第三百四拾八號 同廿七日

大分縣 下第一 大區 の内 八小區 九小區 十二小區 十三小區 五大
區 比内 八小區 九大區 の内 六小區 十大區 の内 七小區 十小區
十一小區 用務所 先般 黨民 暴動 並に 兵燹に 罹り 地所 建家 質
入書 入戸 長公 証根 帳燒失 致候に 付 若管下 の者 該各 小區 地
所 建家に 係る 証券所持 の者 有之 候はば 來明治 十一年 一月

限り 原証書 を以て 更に 公証仕換 の儀 該小區 へ可申立 此旨
布達候事

○甲 第三百四十九號 同廿八日

工部省 第廿一號 十二月廿五日

今般 山口縣 下 萩 へ 電信分局 を設置 し 別紙 の 通音信料 相定
め 明治 十一年 一月 一日 より 爲 試通信 取扱 候條 此旨 布達 候
事

和文 音信料
歐文

一 萩分局 より 隣局 山口分局 へは 和文 壹音信料 金 七錢 歐文
壹音信料 金 貳拾五錢 を拂ふ べ 志

一山口以東各分局より萩分局への和歐文音信料は赤間關
と同玄山口以西各分局よりは廣島と同玄

○乙第四百四十五號 十二月一日

區長

區會條例第七條に示したる議事綱目の外若玄乘議に附せ
んと欲する事件あらば開議以前一應伺出指揮を受くべし
此旨相達候事

○乙第四百四十六號 同三日

區長

區村費本年度豫算帳取調開申の儀に付ては本年九月甲第
二百三十九號を以て及布達置候處差出方追々遷延相成候に
付猶去る十月十五日限り開申可致旨主任よと通達の趣も

有之處干今何等申出無之調理上差問不勘候條至急調整來
る十日迄ふ無相違開申可致此旨更に相違候事
○乙第四百四十七號 同六日

區長
戶長

今般第八拾號(本縣甲第三百拾九號)を以地租金の内田方の
分半額代米納被差許候旨公布相成猶本縣甲第三百二十四
號を以預り米の儀布達候に付ては右兩様の内情願の者有
之候はば一村限り取調別紙書式の願書区内取纏め期限以
前可指出此旨相違候事

用紙界紙

地租金抵當預け米願書式

地租金抵當預け米願書

田方地租金何百何拾何圓何拾何錢 第何區何郡

一金何拾何圓何拾何錢 何 村

此米何石何斗何升 但米壹石に付 金何圓何拾何錢

此壹割増米何石何斗何升

合米何拾何石何斗何升

此儀何拾何儀 但四斗入

瑞米の切捨
俵お止る

右は地租金抵當とて前書ぜんしょの米額御預りおんあづかり被成下度則上米あつかはせられたくもよきじやうまい
手本相添此段奉願候以上てほんあひそまこのたんまがひたてまつりまうじやう

年月日

右村總代
何の誰印

一村一同の情願にあらざるものは情願人各自の姓名を記し調印すべし

何の誰印

擔當戸長

何の誰印

前書ぜんしょの通相違無之候間奥印仕候也とほりあひだまひなくあひだまひいんつまつりまうじやうなり

區長

何の誰印

用紙界紙

代米納願書式

代米納願書

田方地租金何百何拾何圓何拾何錢 第何區何郡

一金何拾何圓何拾何錢 何村

此米何石何斗何升何合

但改正相場米壹石に付
金四圓五拾八錢

外金何拾何圓何拾何錢 正金上納可致分

右は今般甲第何號を以地租金の内田方の分半額代米納被
差許候旨御布達に付前書金額代米納御許可被成下度此
段奉願候以上

右村總代

年月日

何の誰印

一村一同の情願にあらざるものは情願人各自の姓名を記し調印せよ

何の誰印

何の誰印

擔當戸長

何の誰印

前書の通相違無之候間與印仕候也

區長

何の誰印

○乙第四百四十八號 同七日

區長

戸長

昨九年本縣乙第六十九號を以て東京府下内藤新宿勸業寮
支廳内農事修學場入學規則相違置候處今般右規則改正増
補相成自今招集の儀は東京府下に於て本貫寄留を不論招
募候旨内務省より達相成候條區内無洩可相違此旨相違候
事

但之改正規則承知致度者は本縣勸業場へ申出一覽可致
様可相達事

○乙第四百四拾九號 同八日

區長

民費集散假規則第五條に掲ぐる如く區費豫算は該區會の協
議を取り開申せへさ等に候得共未だ發會の運に至らざる
向は區總代の協議を取り開申可致此旨相達候事

○乙第四百五拾號 同十日

各小學校

小學試験法凡例第一款の但書刪除候條此旨相達候事

○乙第四百五拾壹號 同十七日

各小學校

本縣學則第八十條同附錄第拾一號第拾二號第廿九號書式
別紙の通改正增加候條此旨相達候事

學則第八十條改正

第八十條

毎年一月中各書式に依り就學不就學表 第十式 校費出納

表 第十二式 所有物品表 第十三式 寄附物品表 第十四式 吏員教員

表 第十九式 等を取調へ開申すべし

學則附錄第十一號第十二號改正

○第十一號

就學不就學調査表書式

凡例

一 此表中人口幾人どあると所屬町村内の總人員を登記するもれに去て學齡人員は其中より就學不就學に關らる凡て學齡滿十六年迄の者を掲ぐるものとす

一 就學は學齡内と學齡前學齡後に區別すへ

明治幾年 不就學調査表

第四十幾番中學區幾番小學某學校

一 人口幾人男幾人女幾人

所屬町村合計

幾人男幾人女幾人

某町村

幾人男幾人女幾人

某村の内何組

一 學齡人員幾人男幾人女幾人

所屬町村合計

内

幾人男幾人女幾人

某町村

幾人男幾人女幾人

某村の内何組

一 就學滿十六年より幾人男幾人女幾人

所屬町村合計

内

幾人男幾人女幾人

某町村

内

幾人男幾人
幾人女幾人

明治幾年就學

幾人男幾人
幾人女幾人

明治幾年就學

一就學六年未滿幾人男幾人
幾人女幾人

所屬町村合計

内

幾人男幾人
幾人女幾人

某町村

内

幾人男幾人
幾人女幾人

明治幾年就學

一就學滿十四年以上幾人男幾人
幾人女幾人

所屬町村合計

内

幾人男幾人
幾人女幾人

某村の内何組

内

幾人男幾人
幾人女幾人

明治幾年就學

一不就學滿十六年迄幾人男幾人
幾人女幾人所屬町村

内

幾人男幾人
幾人女幾人

某町村

幾人男幾人
幾人女幾人

某村の内何組

一退學幾人男幾人
幾人女幾人

所屬町村

内
幾人男幾人
幾人女幾人

内

幾人男幾人
幾人女幾人

幾人男幾人
幾人女幾人

右之通相違無之候也

年月日

某町村

明治幾年就學の者

明治幾年就學の者

訓導或は補

姓名印

右校事務係

姓名印

右校幹事

姓名印
何村戸長
姓名印
學區取締
姓名印

長官宛

○第十二號

校費出納調査表習式

凡例

一 此表中収納は凡々校費に遣拂ふへき一切の入金と記するものにして所有品調査表中の資本金と混淆すべから

一 拂出は右収納より既に拂出したる一切の費用を其廉限り種類を區別し登記をべし

明治幾年校費出納調査表
収納の部

- 一金 前年より越高
- 一金 補充課出金
- 一金 生徒受業料
- 一金 寄附金利子
- 一金 差加金利子
- 一金 右之外雑入

拂出の部

- 一金 教員給料
- 一金 諸給料
- 一金 修繕費
- 一金 書籍器械費
- 一金 薪炭油費
- 一金 雑費
- 合金 出納差引

金

不有
足餘

右之通相違無之候也

年月日

某學校事務係

姓名印

同校幹事

姓名印

戶長

姓名印

學區取締

姓名印

長官宛

學則附錄第廿九號增加

○第廿九號

更員表書式

明治幾年吏員表

第四十幾番中學區幾番小學某學校

一幹事

但給料幾圓

一事務係幾人

但給料幾圓宛

一訓導幾人

丙

幾人	幾人	幾人	幾人	幾人	幾人
幾人	幾人	幾人	幾人	幾人	幾人
一訓導補幾人	丙	幾人	幾人	一授業生幾人	丙
幾人	幾人	幾人	幾人	幾人	幾人
幾人	幾人	幾人	幾人	幾人	幾人
幾人	幾人	幾人	幾人	幾人	幾人

右之通相違無之候也

年月日

戸長

姓名印

學區取締

姓名印

長官宛

○乙第百五拾二號 同十九日

區長

戸長

今般陸軍省に於て教導團諸兵科生徒召募の儀甲第三百四

拾貳號を以て及布達候に付志願の者有之候はば戸長より其姓名書を區長へ差出區長は區内の姓名簿と製之來十一月十五日迄に可届出此旨相達候事

○乙第百五拾三號 同日

區長 戸長

堤防道路橋梁用悪水路工事規則別紙の通相定候條虚節を省き實用を旨とせ工事堅半費用節減候様注意可致此旨相達候事

但之費用の儀は明治七年甲第七拾六號明治八年甲第三

百三拾二號の通可相心得事

堤防道路橋梁用悪水路工事規則

第一條

堤防道路橋梁用悪水路の工事を分て左の二種とす

第一

國縣道

舊一二等河

同准二等河

第二

里道

舊 三等河

小 川

從來等級を附
せざるもの

用惡水路

第二條

第一種の工事は縣廳之を直管之該區々長をえて監督擔保
せしむ

但之工事の難易輕重に依り主務の官吏をえて直に其地
に派遣之管理せまひる事あるべき

第三條

第二種の工事は區長の主管とす

但之起工の方法を具狀之許可を得落成届となす等は從
前の成規に依る可也

第四條

二十ヶ年期限の(補助金官給)用惡水路及舊三等河は其年限
中暫く縣廳の直管とす可し

第五條

縣廳直管の工事は主務の官員該地に就き實檢審査し目論
見并丁張を立而して該區長をして擔當せまひるものとす

第六條

右工事は豫め仕様概則を示之廣く入札を爲さため受負

人を定む可き最も時宜に依り協議の上該金額を以て區戸長に引受を委さしむる事あるべし

但し戸長引受る時は受書を出さしむ可し

第七條

區戸長の引受と人民の受負とを論せを縣廳直轄の工事は都て該區長の擔任なるを以て區長其工事の大小を計り其町村擔當戸長及土木専務の書記をして擔當調理せよめ怠慢なく之を監視す可し尤主務の官吏も亦時々巡視指揮を加ふる可きあるべし

第八條

工事落成の上は主務の官員を派出せ目論見に照えて之を

檢査せ若し仕立方粗澁錯雜の事あれば區戸長及土木専務の書記其實に任す可き

第九條

區長所轄の工事は其方法等適宜委任すと雖ども前條縣廳直管の方法に準ず可き

第十條

急雨洪水等臨時の破損は其都度修繕を爲す可しと雖ども豫防の工事は最緊要なるを以て縣廳直管に係るものは年々九月中豫防カ所附帳を區限取調區長より上申す可き

第十一條

從來普請に春秋或は定式急破等の名稱あるは渾て相廢之
向後幾年度を以稱す可也(假令は本年七月より十一年六月
迄を十年度と稱する類の如し)

○乙第百五拾四號 同廿二日

區長

戸長書記學校幹事々務掛等疾病の故之以職務を辭する者
は左に掲ぐる條件を記したる醫師の診斷書相添願出さそ
べ之此旨相達候事

- 一 體(質)
- 一 病名

- 一 原因
- 一 症候
- 一 経過
- 一 處方
- 一 豫後

○乙第百五拾五號 同廿五日

各學校

本縣師範學校規則第九章第八條及第九條試験及第定點法
左の通改正候條此旨相達候事

昇級試験得點三分の二以上は昇級せ表む

(昇級卒業)試驗科目中一科半數に充たざるものあれば及第を許さず

○乙第百五拾六號 同日

各學校

本縣學則第八章及び學則附錄第五號別冊の通改正追加條此旨相違候事

但し師範學科卒業せざるもの現今五等訓導以上にて教頭の名稱を有する者は従前の通訓導に据置候尤五等訓導は改正七等訓導四等訓導は改正五等訓導三等訓導以上は従前の通可相違候事

○第八章 教員の事

第五十九條

教員の名稱を分て三とす

- 第一 教授
- 第二 訓導
- 第三 准訓導

教授は師範學校及中學校に於て一科専門の教員之に充つ
但し小學校に於て算術或は裁縫等専門の教員は其給料に依り准訓導或は授業生とす

訓導は官立師範學校及本縣師範學校に於て全科卒業の證書を得たるもの之に充つ

准訓導は本縣師範學校の補充試験を経たるもの之に充つ

第六十條

小學校は訓導准訓導の外下級生徒の教授を補助せまひる爲め授業生を置く

第六十一條

訓導或は准訓導を闕き授業生のみを一校の教員となすを得ず

第六十二條

各小學校教頭は十等訓導以上のもれ之をに充つ

但し一校に於て十等訓導以上のもの數名あれ高等の者之に任ト准訓導に於て一校と受持つ時は假に之を心得べし

第六十三條

教授訓導准訓導を各十等に分ち授業生を五等に分ち等に隨ひ月給を定む即ち左の如し

教授

一等 四拾圓

二等 三拾五圓

三等	三拾圓
五等	貳拾圓
七等	拾五圓
九等	拾貳圓

訓導

一等	三拾圓
三等	貳拾圓
五等	拾五圓
七等	拾貳圓
九等	九圓

四等	貳拾五圓
六等	拾七圓
八等	拾三圓
十等	拾圓

二等	貳拾五圓
四等	拾七圓
六等	拾三圓
八等	拾圓
十等	八圓

准訓導

一等	貳拾圓
三等	拾三圓
五等	拾圓
七等	八圓
九等	六圓

授業生

二等	拾五圓
四等	拾貳圓
六等	九圓
八等	七圓
十等	五圓

一等	四圓
二等	三圓五拾錢
三等	三圓
四等	二圓五拾錢
五等	貳圓

第六十四條

教員は男女の別なく其學識品行に因り官民の際に於て撰擧を其任死黜陟は縣廳之を行ふべし
但去年齢は二十歳以上たるべし

第六十五條

凡て教員の等級は師範學校に於て試験の上其學力に因て之を定む
但之師範學科卒業の証を有する者は試験を要せず相當の等級を定むべし

第六十六條

凡教員之少くも一年以上勤続の見込める者たるべし故に新に任用するときは第五號追加書式により誓約書を出さしむべし

第六十七條

小學校に於て教員を撰擧任用せんと欲するときは本人族籍履歴等第五號書式に依り調師範學校へ申出べし

第六十八條

授業生は多く其校先進生徒中より撰擧するものと故に授業生を雇入る時は學區取締教員幹事協議の上其等級を定め住所姓名年齢等詳記師範學校へ届出べし

第六拾九條

満期の節及び期限内不得止事故ありて轉免交代する時は引受に屬する書籍器械簿書其他半途未整の事件等は其次第の演説書と作りて第六號書式に準て新舊教員の間に於て受渡の証書を交付すべし

第五號追加 誓約書々式

誓約書

一 私儀今般何等教授(或は訓導又は准訓導)拜命候上は業務を相改候意志無之假令疴氣其他不得止事故出來候共輒く免職願出候様之儀決て致問敷候之依誓約書差出置候也

何等教授 或は訓導又
何學校教頭 或は教頭心得

年月日

何 某 印

山梨縣第五課

御 中

第百五拾七號 同日

各 學 校

本年乙第四拾三號達小學教頭職務章程第一條左の通り改正候條此旨相達候事

第一條

敬頭は十等訓導以上を以之れに充つ

但し十等訓導以上は者数名あれば高等の者之に任之準
訓導に去て一校を受持つ時は其高等のもの假あ之と心
得べき

○乙第百五拾八號 同廿六日

區長 戸長

管内物産取調の儀明治七年十一月甲第二百四拾八號を以
相達置候處右は品類繁雜に涉り是が爲煩勞不勘儀に付今
般更に改正し農産物表式例言別紙の通相定候條右に照準

し詳細取調毎年翌一月三十日限可差出此旨相達候事

物産表編成例言

第一

此物産表は全國必要なる農業上の産出物に就て其播種地
産額通價の増減を徴せんが爲に編成せる所なり

第二

物産の種類を大別して二種となす第一普通物産第二特有
物産是あり

第三

普通物産とは各地一般に耕種せる所の日用食料の要品を

謂ふ此類を定めて拾四種となす其目左の表の如し

第四

特有物産とは地質氣候等の異同に依て産出の地方限あるものを謂ふ此種類を假定して十八種とす其目左の如し

實綿 麻 繭類 自他製糸に拘はらず其總額を掲ぐ

べし 藍葉 生糸類 賣買に拘はらず其總高と掲ぐべ

し 製茶 楮皮 雁皮 三椏 たも 之に準ず 漆汁 葉烟 艸

菜種 人參 紙類 椎茸 菌 蜂蜜 葡萄 桔

露柿 小梅 漬

第五

數量は穀類には石を用ひ其他は都て斤(百六十匁)を用也

第六

耕地は現に植物を栽培する所の段別を謂ふ

第七

通價は一區中の平均と取り一石一斤の價格を擧ぐべし

第八

凡そ産額の増減平年に比較して大なる差異ある者は必ず其源因を究認せざる可らば例へて風雨寒暑水旱霜蟲の災或は開墾培養種子器具方法の改良進歩等の影響にて其産出

人參	紙	椎茸	陶	蜂蜜	葡萄	桔露柿	小梅漬	三つ挫	雁皮	たも
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、

明治何年普通物産表

第何區ヶ何村

米	粟	黍	稗	大豆	裸麥	蕎麥	蜀麥	玉蜀麥	甘薯
石	、	、	、	、	、	、	、	、	、

播種地段別

前年比較
増減

産額

前年比較
増減

一石一斤の通價

賣 弘 所

明治十一年一月二十六日出版

山梨縣第一區甲府常盤町四番地

又新社々主

傍訓並出版人 內藤傳右衛門

甲府八日町 五明堂

同 柳町 井筒屋豐兵衛

山梨郡中牧村 芳賀用右衛門

同郡勝沼驛 萩原榮造

同郡日川村 志村權左衛門

同郡稻門村 內藤金兵衛

八代郡駒飼驛 風間五左衛門

同郡鴨狩津向村 內藤吉致

巨摩郡望崎驛 清水彦左衛門

同郡明穗村 常盤竹代

同郡睦合村 伊奈平橘

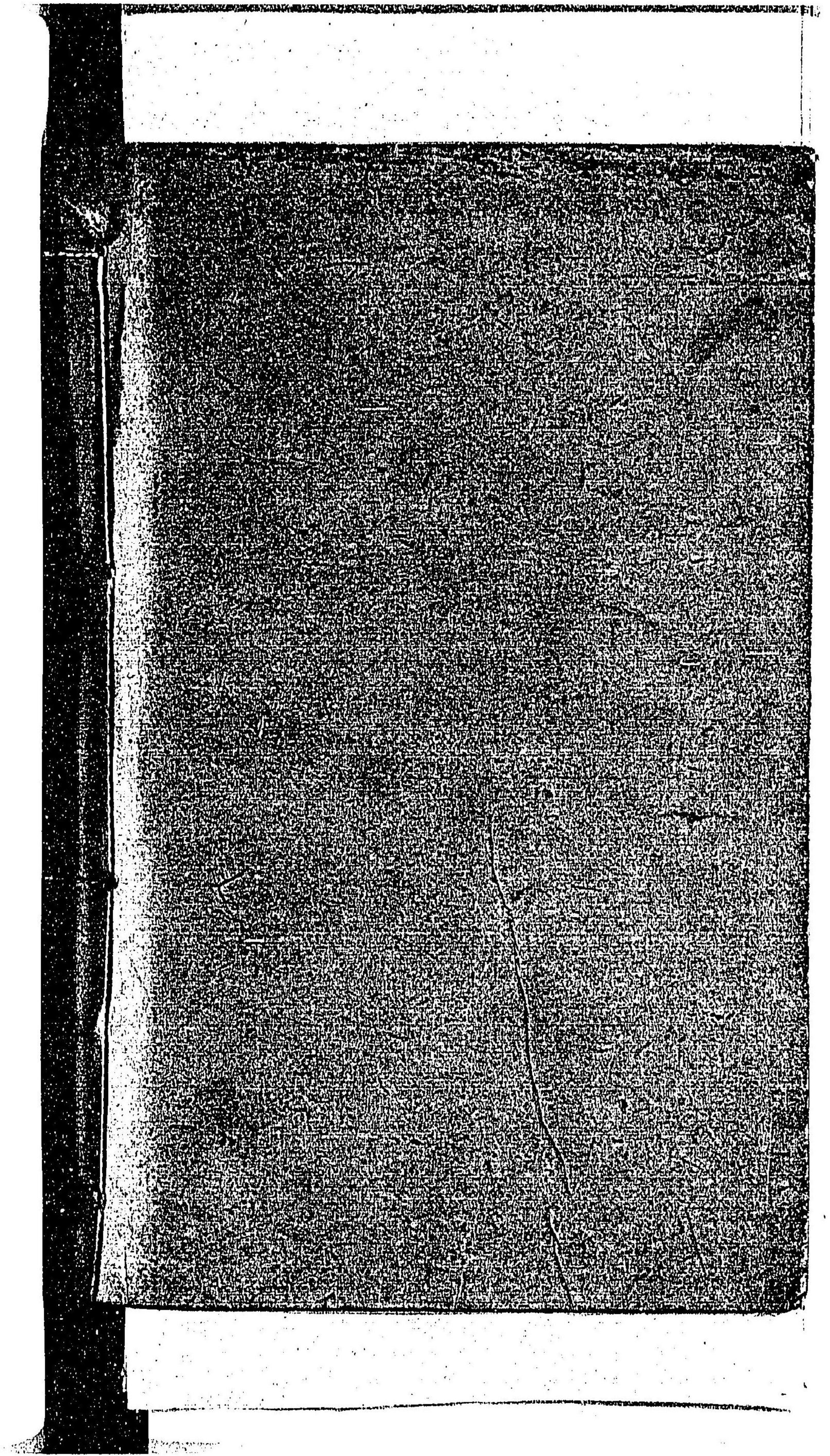
同郡万澤驛 吉田富榮

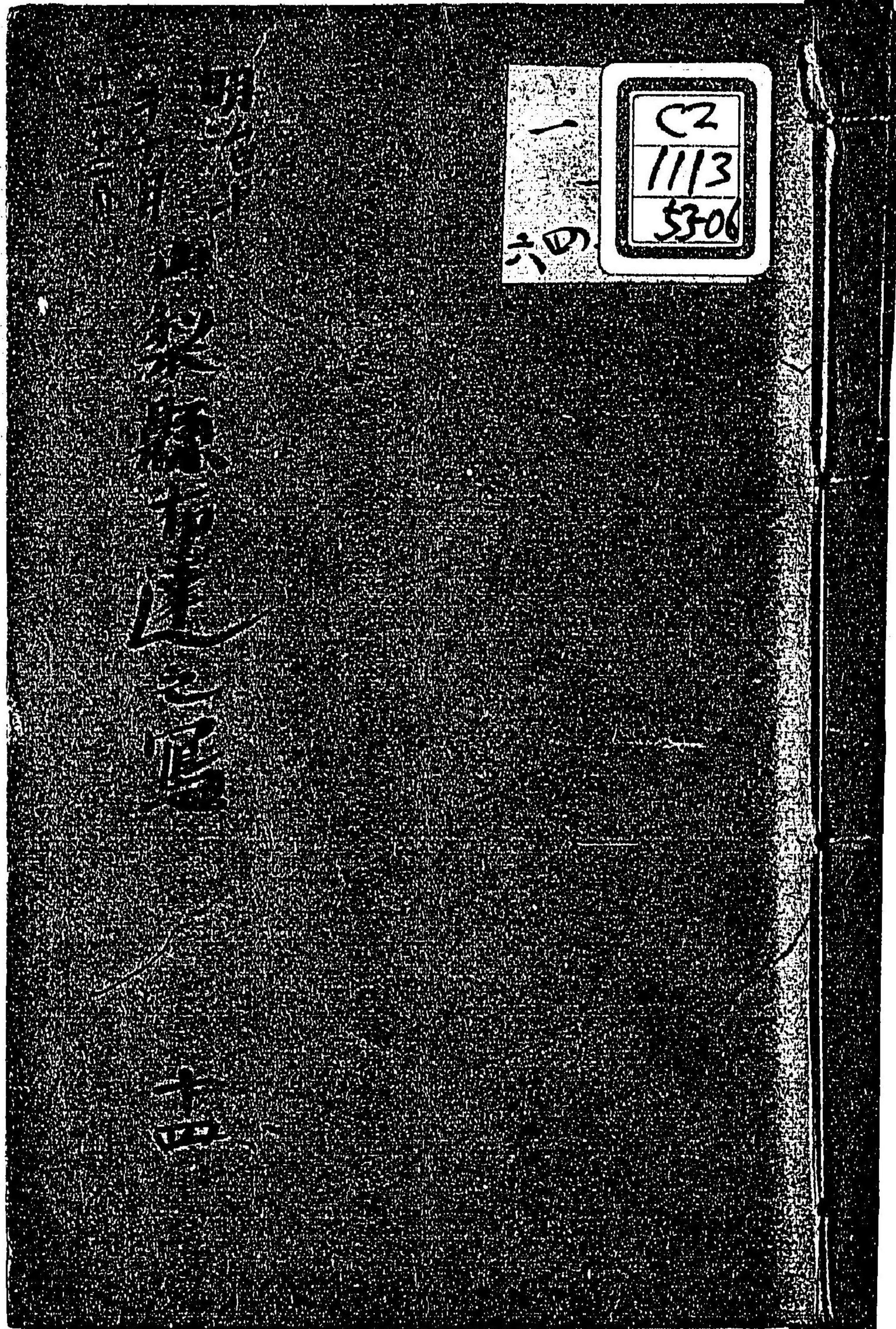
同郡切石驛 佐野德平

同郡歙澤驛
都留郡上野原驛
同郡谷村

早川省三
富田秀實
石村彌兵衛

定價拾錢





031405-014-7

CZ-1113-53-06

山梨県布達之写

又新社

M9-13

BBD-0767

